

ものみダイからのケイザイガク

エイゾウ



はじめに

わたしは、これまでにななサツホンをだした。ロクサツはズイヒツで、イツサツは、ブツリガクっぽい（わたしは、ガツカイトウにシヨゾクしていませんので。）ホンである。このイツサツは、ロクサツからバツスイしてコウセイした。ホンチョは、これがケイザイガクでもでないかとおもい、やはりロクサツからバツスイしてコウセイした（やはり、ガツカイトウにはゾクしていない。）。

キホンテキに、インヨウはしていない。カツテリユウのケイザイガクである（それをなつていいのかというモンダイはある。）シヤカイシュギケイザイはシツパイしただろうが、シホンシュギケイザイもセイコウしたというわけではない。ただ、イツポウよりながいだけだ。「デフレ」のモンダイは、シホンシュギケイザイにつきまとっている。それを「キンユウカシワ」でのりきろうとするのが、いまフウであるが、シヨミンのセイカツがくるしくなる。このホンで、このこたえはだしていかないが、ひとつのシュダイである。そのうちでもこたえがみえればいいとおもう。

ニセンジュウキユウネンクガツニジュウハチニチ



イチ 『アルクカラ カンガエル（イカ、『ア』）ゴジュウヨン

フンをうみにながせば、うみに シゲンというかがたまる。ハイセツブツ といったって、こしたあとの ショクブツ、ドウブツセイブンだから。ま、それをうみにながしていると。ま、すくなくとも かわにはながしている。だからうみにも みたいなのが ハッセイしたりするんだらう。

むかしみたいにはたけにまけば、わりとちかいところで ジュンカンする。でも スイセンベンジョはやめにくいんだらう。ショクブツだけなら はたけとジブンとで ジュンカンするだけだ。ムダがないから ヒリヨウも そんなにいらんだらう。

ニ 『ア』ロクジュウゴ

マルクスはなにをのこしたか。キョウサンシユギコクとだれかがいうかもしれないが、わたしにとっては そうでない。いや、それもあるけどだ。ケツキョク、シホンカがつよいのはしょうがない。ロウドウシヤははたらいて かねをてにする。だったら、ウンドウする

ジカンをけずってかねをてにしたほうがよいのではないかと。つまり、はやいものがちだと。だから、すぐにやらなければならぬ。

たしかに ウンドウをして タシヨウ チンギンはあがるかもしれないが、そのために ついやすジカンは、そのジカンはたらいしていたら どのくらい かせげたかを かんがえらとどうなのかと。ケツキヨク シホンカがはらったりするんだらうけど そのキギヨウは シキンテキによわる。それは ロウドウシヤにとつてどうなのか。ソレンのようにセイコウした、する、かもしれないが、キヨウソウでは うまくなかつた。いいコウエキができないとなれば、その、シホンカ、キギヨウはよわつていく。それだったら、すぐにしごとをしると。そういう、マルクスのキヨウクンは いかしたい。

キヨクロンすると、ハンセイするまもないのだ。だから、コンサルタントなんだ。コンサルタントになりたきや ケンキユウするといひ。でも、ゲンバがダイジじゃないかと。それに、そのしごとのセンクシヤもいる。レキシのケンキユウをしているようじや ニリュウだと。シユウエキを あげられるんらしいですが。

サン 『ア』 ハチジユウ

エイキョウリョクのあるひとが、やしくていいものをたべていたら、まねとかしてそのやしくていいシヨクリョウはタイリョウにシヨウヒされるかもしれない。

だから、たべものをシヨウカイする テレビばんぐみでは、ジュウヨウなシヨクリョウでなく、チュウカメンとかパンとかをシユザイするんだらうとおもってしまふ。ヨウするに、チュウカメンとかパンはしなぎれしてもいいと、シユザイするひとはかんがえているが、タブン、やきニクはしなぎれしてはまずいとおもっているのでは。

そういえば、ナナジユウネンイジヨウまえのセンソウは、ニホンジンがギユウニクをたべはじめたからタイヘンだったという「すきやきセンソウ」ともいえるかもしれない。カチクをきりくずすつていうのはシヨミンにとつてのセンソウである。さかなくつてりやいのにおもってしまう。そういうセンソウがおこつてはたまらない。だからといってまったくニクをたべないのはむずかしい。でも、そういう、ううしいとか、うまいはモンダイだ。うしはノウギョウとか、うまはイドウとかにやくにたつ。だから、「ぎよい(しい)」がいいか。

よん 『ア』ヒヤクニジュウハチ

センシンコクビヨウ (●『ア』サン)とはセンシンコクにおける、トウルイ(きとうなど)のケツボウである。どうしてもみなみにむきがちだ(トウルイがとれるから)。さらに、ネンリヨウももとめたりする。そういうシゲンをめぐるって、あらそつたり。うまくセツヤクしながら やつていけばいいが。

ゴ 『ア』ヒヤクゴジュウサン

マルクスはシホンカによる「サクシユ」があるといつたらしい。その「サクシユ」をふせぐために、レンタイするのは、タブンソレンのがんばりからもたしかなんだろう。しかし、ロウドウシヤがすぐにでもシホンカになれるかといつたらむずかしい。それは、そういう、かねをウンヨウするドリヨクとかについて、シホンカのホウが、はやくとりくみはじめたからだ。だから、シホンカが、ロウドウシヤになるのもむずかしい。それは、ロウドウするドリヨクはすでにロウドウしている。ロウドウシヤのホウが、はやくとりくんでいるからだ。ケツキヨク、マルクスとそのエイキヨウがあつたひとたちは、なにをしめたかというところ、  
「はやくドリヨクしたひと」が、ほかの、そうでないひとよりもユウリである。ということではな



いだろうか（●ニ『ア』ロクジュウゴ、『ア』キュウジュウ）。わたしはそれを マルクスのキョウケンとよんでいる。

ロク 『ア』ヒヤクゴジュウロク

「シヨウヒシヤ」ということばがあるが、「ロウドウシヤ」とか「シツギョウシヤ」のしただに「シヨウヒドレイ」カイキュウがあるようにおもう。わかりやすいレイでいえばアルチュウとか。さけのシヨウヒをやめられず、また、ドをこしてさけをかってシヤツキンつくるとか。ほかのものでもそうだ。そういう「シヨウヒドレイ」カイキュウにはならないようにしたい。シツギョウシヤはさらにシツギョウしないが、そういうカイキュウにおちるかもしれない。

なな 『ア』ヒヤクロクジュウイチ

しゃべるはやさはやいホウがしごとがはかどっていると見えぬか。セツメイなんか

も、しゃべるはやさがニバイなら、ニブンのイチのジカンですみ、ほかのしごとができる。ながいといわれるカイギもサンバイのはやさのしゃべりなら、サンブンのイチのジカンでおわる。それなのになぜガツコウに、ニバイソクコースとかサンバイソクコースがないか。おしえられるひとがいないのかもしれない。

ハチ 『ア』ヒャクキュウジュウゴ

ニホンジンは「チヨウジュ」といわれているが、シヨクリヨウのジキュウリツはヨンジュッパーセント。カンサンするとハチジュウネンいきたひとのヨンジュウハツサイブンは、ユニユウということになる。だから、なんかのリユウでシヨクリヨウユニユウがテイシされる、ニホンジンのジュミヨウはサンジュウニサイにちかづいていく。それならユニユウにたよらずになんだが、あまりうまくいっていないようだ。キカイものをうって、「ジュミヨウ」をてにいれるなんて、まるでレンキンジュツだ。

キュウ 『ア』ニヒャクジュウニ

わたしは、「シホンシュギ」というのは、それぞれのオーナーが、「わるいやつ」からザイサンをまもるためにいろいろなクフウをしていこうとするかんがえとおもっているが、そのひとつのレイとしてき（くだものなる）のケイタイがある。「わるいやつ」は、「はしご」をもっていないので、「くだもの」をとれないというソウテイである。くだものはたかいたころになり、みきのしたのホウはえだがない。そういうケイタイがおおいとおもう（●『ア』ニジュウキュウ）。きがさきか、シホンシュギがさきかはわからない。それをわたしは「シホンシュギのケイタイ」とよぶ。そのシホンシュギのケイタイにニホンのネンレイベツジンコウコウセイズがにている。いってみれば、ショウシコウレイカはシホンシュギだからしかたない、といえる（しかしあるカンサツでは、したのホウがさかえることもカノウなようだ。ただ、ニンゲンがあたらしい「シホンシュギ」のケイタイになれるヒツヨウがありそうだが）。つまりうえのホウがさかえているのだ。ま、わかいひとのカンシンは、「み」がおちてくるかというところだろうか。

ジュウ 『ア』ニヒヤクニジュウゴ

けさ、ジューディーピーをカンサツしたら、あまりうごいていなかった。ヨジごろよりもゴジごろのホウがうごいているとおもう（イゼンのカンサツより）。やつぱり ニツチュウがおおいのか、いや、ヤカンのホウが コウソクにうごけるし、つまらずにうごけるから シンヤによくジューディーピーは うごいていないだろうか。しかし、シウケンなどは ニツチュウに うごくから そういうのは ニツチュウだ。

ジューイチ 『ア』ニヒヤクサンジューイチ

ドウロが あったほうがジューディーピーは はやくうごける（●ジュー 『ア』ニヒヤクニジューゴ）。だから ニホンも やたらドウロをつくつたんだろう。でも トシコツカならはこぶキヨリが みじかいから ジューディーピーも はやくジョウショウする。だから もつともひとりあたりジューディーピーがたかひのかねもちのカテイとか、よくあるフウにいえば トシコツカなんだろう。だから トシコツカとくらべて ひくいと か あまりきにすることはないとおもうが。なんなら メンセキヒをくわえて サイケイサンするといひ。

ジュウニ『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ（イカ、『む』）』ヨンジュウ

「あたらしい シホンシュギ」というのもあるのだろう（ジツはふるい「シホンシュギ」かもしれない）。ある「（みどりのはっぱをもつ）き」がおしえてくれた。しかし、ニンゲンが（わたしが）そのあたらしいシホンシュギになれないために、むかしながらの（イッパンテキな）シホンシュギにあらうように チョウセイしようとしたりする（●キュウ『ア』ニヒャクジュウニ、『ア』ニジュウキュウ）。

「あたらしい シホンシュギ」とはなんだろう。としよりが かねをもつ というのはかわらないが、ちいさい子どもも ゲンキというかんじのものだ。としをとると ネンキンがもらえてさらにゆたかになるというのは セイドをかえないかぎり かわらないが、ちいさい子どもが こづかいをもらってか それなりに ハンエイする というものだ。たしかに「こどもてあて」というのはある。そういうのをつかって、こどもがジブンのポケットマネーで ガクヒをはらったり、シヨクヒをはらったりということも そうかもしれない。ただ、ニホンジンのばあい、あまりこどもをダイジにしないブンカがあるらしいから、むずかしいだろう。

ジュウサン 『む』 ヨンジュウサン

コウジョウなんかではニジュウヨジカンソウギョウをしている。なぜはじめたかはセイカクにはわからないが、コキヤクにはやくセイヒンをとどけたいからとかキカイをレンゾクでつかいつづけたいからとかなんだらう。そうするとシンヤにはたらくニンゲンもヒツヨウになる。そういうひとがいないとニジュウヨジカンソウギョウはなりたない。シヨウテンもニジュウヨジカンエイギョウをしていたりする。いつでもかいにいけるのでベンリだ。しかし、なぜニジュウヨジカンガツコウがないのか。ニジュウヨジカンソウギョウやニジュウヨジカンエイギョウのキギョウではたらくロウドウシヤがいるはずなのに。かんがえてみれば、シンヤにあつまるシヨウニズウをあいてにジュギョウをやるのはヒコウリツである。だからそういうジュヨウは、オンライン（ツウシン）がみたすのであらう。

ジュウよん 『む』 ヨンジュウキユウ

キユウジュウネンダイ、レイネンダイに「セルフサーブ」のみせがふえてきた。ちよつと

したシヨクドウにはいると、いくらかでのみものを「セルフサーブ」することができるというメニューをえらべることがおおくなつた。「セルフサーブ」により、テンインのロウリヨクがへり、カカクもやすくおさえられるのだろう。そのメニューがはじまるまえより、イッパイのカカクはやすくなつたとおもう。ただ、テンインにもつてきてもらいたいときもあるので、センタクできるといいとおもう。

カテイでだすゴミのブンベツも「セルフサーブ」になつた。ゴミシヨリヒがやすくなつたというはなしはきかないが、そのブンやすくなつてゐるのだろう。(ロウゴの)ネンキンなんかも「セルフサーブ」にしたらうけとるブンがふえるか、ギョウセイのヒヨウがへるかもしれない(カクテイキョシュツガタのネンキンがあるが)。イリヨウホケンもそうだ。ただ、ロウドウリヨクか、おかねをださなきやならないが。

ジュウゴ 『む』 ロクジュウシチ

たしざんつていうのは、カンタンなようにおもえるが、それは、どこかでひきざんがなりたつていないと、フカノウだ。たとえば、ニヒヤクエンのさかなをキヤクにうるとなると、

「さかな」イッピキがひきざんされてかわりにニヒヤクエンをうけとるわけだ。さかなはムゲンにあるようだが、やつぱりエサとかシゲンにかずがサユウされる。ジブンのこづかいをひきざんするというのはつらいが、ベツのものをたしざんするためにしかたなかつたりする。

ジュウロク 『む』 ナナジュウヨン

なぜガツシユウコクのひとたちが「ショウヒ」のケンインヤクとされるのか。それはタブンガツシユウコクのひとのいえがおおきいからである（ここではブツリテキにおおきいといっている）。だから、ガツシユウコクのひととくらべてニホンジンのショウヒがすくない（ショウヒがのびなやんでい）というのはいえのやむをえないことだろうとおもう。ニホンジンのいえは「ちいさい」といわれるし、いえのおおきさのハンイでしかものはシユウノウできないからだ。そういうわけだから、「ものがうれない」というのをなげくのだったら、「おおきな」いえをたてることにキョウリヨクしたホウがいい。



ジユウなな 『む』 ヒヤクニ

「フケイキ」といわれるようになると、「ケイキタイサク」なんていわれはじめ。それでグタイテキになにをするかはよくわからないが、なにかにかねをつかうのだろうとおもう。セイジカの「トツケン」である「キセイカンワ」をしたというはなしはきかないからだ。ただ、それはケツカをもとめる（られる）ので、コウカテキにつかわれるのだとおもう。

その「コウカ」をはかるのはなにかというと、カクシュトウケイのスウジや、「ケイキ」というブンガクテキともおもわれるカンネンのチョウサででるスウジだろう。ただ、「ケイキタイサク」というと、やっぱり、「ケイキ」のチョウサででるスウジがダイジになってくるのだろう。だから、そのチョウサにカイトウするダンタイや、コジンにかねをばらまけば、「ケイキ」はうわむくだろう。そういうチョウサをでたためにえらんだダンタイや、コジンにやっているなら、ホントの「ケイキ」がハンエイされたものにちかくなるのだろうが、チョウサするダンタイや、コジンがコテイしているとすると、「ケイキ」がよくなったというケツカをしめすためには、そこにかねをつぎこむしかない。そうすれば、「ケイキ」はうわむいた」とカイトウされるからである。それをヒハンテキなひとは「リケン」とよぶである

うが。

ジュウハチ 『む』 ヒヤクハチ

このまえ ドウロコウジをしているのをみかけた。タブン、ギョウセイがフタンするのであろう。たしかにジーデイピーをあげるためには、ドウロはヒツヨウだ（●ジュウイチ 『ア』ニヒヤクサンジュウイチ、ジュウ 『ア』ニヒヤクニジュウゴ）。ドウロをいいジョウタイにしておけば、ジーデイピーはあがりやすい（なぜなら ショウヒンがはやくとどき、とりひきがカソクされるからだ）。でも、デンシツウシンにゼイキンをトウニウしたとは、きかないから、ギョウセイはゲンブツシュギなのだろう。やっぱりいまではとりひきに、デンシツウシンをつかうから、それをエンカツにおこなえるようにすれば、ゲンブツのうごきはともかくジーデイピーはあがる。まあ、ゲンブツがダイジだからいいが。

ジュウキユウ 『む』 ヒヤクジュウイチ

きようもジーディピーがうごく（●ジュウハチ『む』ヒヤクハチ、ジュウイチ『ア』ニヒヤクサンジュウイチ、ジュウ『ア』ニヒヤクニジュウゴ）。なんでもジーディピーをニワリゾウカさせようというのがセイフのモクヒヨウらしい。ということはいままでよりもニジュツパーセントうごかすソクドをあげて、あいたジカンでやつぱりやりとりすればジーディピーはあがる。ただ、ヨユウができて、やりとりするとはかぎらない。チョククするというセンタクシがあるからだ。

じゃ、ジーディピーはあがらないのか。ひとつホウホウがある。ツウカにシヨウヒキゲンをつけてしまうのである。そうするとつかうしかないで、ジーディピーはあがるとおもわれる。ただ、そうすると、シヨウヒキゲンがないツウカにかえてつかいはじめるだろうからコウカはゲンテイテキだ。やつぱり、ニジュツパーセントおおくはたらかなければなのだろうか。

ニジュウ 『む』ヒヤクジュウサン

ニホンはみずのモンダイをかかえているといえる。みずブソクだからそういうかという

とたしかにそれもあるのだが、いわゆる みずブソクは ヘンドウする。そういうことでなくて、コウゾウテキな みずブソクである。それは、シヨクリヨウのユニウにあらわれている。

シヨクリヨウジキユウリツがちいさくなつたといつてたびたびはなしになる(●『ア』ヒヤクロク)。ジキユウリツをおおきくするには、ノウギヨウをするようだ。しかし、みずブソクであれば、ノウギヨウはできない。だから、ゲンジヨウでは、そうカンタンにジキユウリツはカイゼンしない。つまり、すでにシヨクリヨウをユニウしなければならぬほどの、コウゾウテキな みずブソクなのである(みずをユニウしているとかんがえてよい)。だから、みずの、ジヨウズなりヨウを、しないとジキユウリツがあがらないし、シヨクリヨウのセイサシヤンが、ガイコクだのみになる。だから、みずをジヨウズにつかうのは、ダイジなのだ。

ニジユウイチ『む』ヒヤクニジユウイチ

ジユウボウエキジヨウヤク(サイキンはエフテイエーということがおおいようだが「フリートレード」トリーテイである)などに、ノウカはギモンをもっているのだろう。たしかにカンゼイがなければ、そのしなものがやすくてにはいる。しかしながら、カイガイからは

ってくる やすいノウサンブツにおされて ノウカがダゲキをうけていいのかともいえる。カイガイから ノウサンブツを ユニウして、コクナイでつくったコウギヨウセイヒンをユシユツしていれば いいというかんがえかたもある(シヨウヒンサクモツをタリヨウにつくって、シヨクヨウのサクモツをすこししかつくらないのは よくないと わたしがちいさいころにおそわったことがある)。なんかのリユウで ユニウができなくなったら うえじにである。

むかし、あぶらをもとめて ニホンゲンは トウナンアジアに シンコウした。セキユがサンシユツされるからだ。セキユがないとふねがうごかない。コウクウキもうごかない。だからセンソウをするときめたら、ただちに セキユをもとめて ナンシンした。なぜ ナンシンせざるをえなかつたか。それは オウベイが ニホンへの ユシユツキンソチをとったからだ。それとおなじように、シヨクリヨウの ユニウがとまれば、ニホンジンはまた セキユのとときとドウヨウに、にしなり みなみなりに シンシユツするようになりかねない。

まえのセンソウでは、オウベイジンや シンシユツサキのヘイシがたまをうって ニホンジンを コウタイさせようとした。しかし、シヨクリヨウがフソクのばあいは ニホンジンをたおすには「たま」はいらない。ただくにやジンチをかたくまもっていれば、そのうち ニホン

ジンはうえてたおれていくのだ。ギャクにせめこまれてもうえがあつてはまもりきれない。シヨクリヨウジキュウリツ（●ニジュウ『む』ヒヤクジュウサン、『ア』ヒヤクロク）がヨソわりといわれている。だからゲンジヨウでは、そういうジヨウキヨウになつてもヨソわりはいきのこる。それでも、コクナイセイサンをギセイにしてユニウしろというのか。むかしはまかなえていたはずである。

## ニジュウニ 『む』ヒヤクニジュウニ

ケイザイのことをかたるとき、とめるものからまずしいものにと「とみ」がこぼれるということをいう。それはなくはないとおもうがむずかしいとおもう。ゲームセンターにコインをいれて、そのコインのアツリヨクでほかのコインをおとしよりおおくのコインをカクトクするというゲームをゴズンジだろうか。なかにはジヨウズな（トウシガクよりもカクトクガクのホウがおおい）ひとつもいらつしやるだろう。だが、タイテイのひとつは、トウシガクのホウが、カクトクガクよりもおおきくなつてしまう。

ジツサイのゲームでそうなんだから、「とみ」がこぼれることをキタイしても、「とみ」のイ

チブがとどくまえにおおかたの「とみ」はだれかにぬかれてしまうのだろう。あのゲームはニンゲンシヤカイのホンシツをおしえてくれたとおもう。ほかにケイヒンをつりあげるゲームもあった。やっぱりこれも「とみ」がぬかれるようだ。だから「さかなつり」のホウがいいかといえ、**「ギョギョウケン」**がどうのとやっぱりぬかれるのである。

ニジュウサン 『む』ヒヤクサンジュウイチ

ゴリンチュウだから、ニホンジンセンシュがとったメダルのかずをホウコクしていたりする。くにベツで見ると、やはりアメリカガツシュウコクがもつともとったメダルのかずがおおい。これはわかるような気がする。タイコクだから。そしてチュウゴクもおおい。これもタイコクになってきたからわかる。ジーディピーでいうとこのニコクのつぎはニホンがあらわれるはずである。しかし、メダルのかずではエイコクがあらわれ、さらにほかのくにがニ、サンあらわれる。ジーディピーはつまるところニンゲンのロウドウだから（サイキンはキカイやコンピュータがふえているだろうが）、ジーディピーがたかいほどいいしごとをしているはずである。だから、ゴリンでもニホンのセンシュはカツヤクしそうな

ものだ。でも、なぜゴリンでとったメダルのかずが、ゴイイカなのか。それは、ニホンのホントウのジーディピーが、ホウコクされているスウジより、すくないからではないか。くわしくいうと、ニホンのホントウのジーディピーは、ホウコクされている。ハンブンのスウジテイドで、あとのハンブンは、おかねをひだりから、みぎにながして、ムリヤリスウジをあげているのではないかと。そんなだから、ケイキタイサクをしないと、スウジがひどくおちてしまうので、それをやめられないのではないか。たてもものやドウロをつくるのではなく、ジツはおかねをひだりから、みぎにまわすことが、ジーディピーをあげるため、カンゲイされているのかもしれない。かりに、エイコクのジーディピーが、コウヒョウされたスウジより、おおいとしても、エイコクジンは、よくはたらし、ニホンジンは、エイコクジンよりは、はたらかないか、タシに、ニホンジンのウインドウノウリヨクが、ひくいといえそうだ。

ニジュウよん 『む』 ヒヤクサンジュウロク

「ロウドウジカン」がすくなく、「キユウリヨウ」がすくないから、「ビンボウ」なのか、「ビンボウ」だから、「ロウドウジカン」がすくなく、「キユウリヨウ」がすくないのか、わか



らない。イッパンテキには「ロウドウジカン」がすくなく、「キュウリヨウ」がすくなく、「ビンボウ」なのはカンレン（ヒレイ）するだろう。しかし、これらのどちらがさきにハツセイするのはあまりセツメイされない。

あるひとは「ロウドウジカン」がすくなく、「キュウリヨウ」がすくなくから「ビンボウ」というだろうし、あるひとは、「ビンボウ」はつぎのセダイにケイシヨウされる（つまり「ビンボウニン」は「ビンボウ」のままだ）という。だから、「ビンボウ」をカイケツするため、「キュウリヨウ」をあげようというはなしはよくきく。そうすると、「キュウリヨウ」があつたから「ビンボウ」ではないというロジックだ。しかし、「ビンボウ」だから「ロウドウジカン」がすくなく、「キュウリヨウ」がすくなく、といういいかたはあまりしないし、「キュウリヨウ」をあげずに「ビンボウ」をカイケツするようはなしはあまりきかない。

わたしがおもふのは、「ビンボウ」なひとはシヨクセイカツがまずしくながいロウドウジカンにタイオウできずにいて、したがってキュウリヨウがすくなくなつてしまふというジヨウキヨウがハツセイしているのではないかということ。それをカイケツするのはシヨクセイセイカツをカイゼンするのがいいが、「キュウリヨウ」がすくなくと、ほかのセイカツヒもあるから、なかなかカイゼンしにくい。だから、「ビンボウ」と「キュウリヨウ」がすく

ないというアクジュンカンが、ハッセイしてしまう。そこに「キュウリヨウ」をあげるようなジョウキヨウをつくると、「ピンボウ」なひとのシヨクセイカツがカイゼンされるカノウセイがでてくる。しかし、そのあがったブンをテレビコウニユウにつかっってしまうと、シヨクセイカツはカイゼンされない。だからまた「ロウドウジカン」がすくなくままになる。そうすると、そのひとをコヨウしているキギヨウのフタンだけがふえる。それがわるいようにつづけば、キギヨウのギョウセキがアツカして、サイアクのばあい、トウサンしたり、ジンインサクゲンにふみきつて、そのひとはカイコされるかもしれない。それではその「ピンボウ」なひとはさらに「ピンボウ」になってしまう。だから、キュウリヨウがあがったブンをそのひとのシヨクセイカツのカイゼンにつかわれるのなら（シヨクセイカツのカイゼン、ロウドウジカンのエンチヨウ、キュウリヨウのジョウシヨウト）「ピンボウ」なひとの「ピンボウ」のカイゼンにやくだつが、ほかのなにかにつかっってしまうようにだとキギヨウのフタンばかりがふえる。だから、ひとのリヨウシンやリヨウシキをしんじないのだったら、タンジュンに「キュウリヨウ」をあげるのはさけるべきだろう。

「ピンボウ」なひとは「ピンボウ」なままだといういいかたもあるが、ニホンジンはセンソウにまけてあまりゆたかでないジョウキヨウからセンゴシユツパツした。かならずし

も「ユウフク」になつたとはいえないだろうが、それなりにセイチヨウしたといわれる。チユウゴクも「ゆたか」になつてきているという。だから、「ビンボウ」をカイゼンするのは、やりかたをまちがえなければカノウだとおもう。

## ニジュウゴ 『む』ヒヤクサンジュウキユウ

なぜサバクがあるか。ネンリヨウなどにきをきりだしてつかい、それがテツテイテキにおこなわれ、サバクカしたともいわれる。サバクになつてしまつたら、そこにすむことはコンナンだ。いつてしまえばカイシヤのトウサンみたいなものだ。そのトウサンしたカイシヤをたてなおすのはむずかしい。そのカイシヤをてばなしてベツのところになつたりするだろう。しかし、そんなことばかりやつていたらトウサンしたカイシヤばかりになつてしまう。だから、みどりがたもてるようにセイカツするのがたさいだろう。また、みどりをサイセイできるならしたホウがいい。

ケイザイが コウチヨウかどうかをみるとき、ジーデイピーやシツギヨウリツばかりをみるではなく、そうしたメンをみるのもダイジだろう。いつてみれば、イチジテキなセイサン

リヨクをみるのではなく、チョウキテキなケイザイリヨクをみるわけだ。サバクカがシンコウしているとあれば、もうそのくにはもたないだろうなどと。

## ニジユウロク 『む』ヒヤクヨンジユウヨン

ジンルイシのシヨキには「アイ」はなかったようにもおもう。「アイ」がなかったというよりも、「アイ」というコンセプトがなかったんだろう。「アイ」があればセンソウはおきないかもしれないが、レキシをみるとたびたびセンソウがおこっている。トクに、ニジユツセイキのセンソウはおおきかった。だからセカイタイセンなどとよばれる。じゃあニジユツセイキのひとは「アイ」がすくなかったのか。ヘイワなジダイにくらべて「アイ」がすくなかったかもしれない。なぜニジユツセイキのひとは「アイ」がすくなかったのか。ジンルイやジンルイの「アイ」はシンポしてもよきそうである。

ひとつ いえそうなことは、「アイ」を「かね」にかえるようになったのではないかということ。いってみれば シホンシユギのヘンカである。ウエーバー（ドイツのシャカイガクシヤ）さんは キンヨクテキにはたらく キリストキョウのカイカクハが シホンシユギをハッタツ

させたといったが、そのケツカはたしかにシホンシユギをハツタツさせたかも知れないが、そのひとたちがくらすくにはシヨクミンチをもつようになった(ていた)。そこからゴウインなサクシユもしただろう。それなら、キンヨクテキなひとの はたらきというよりも、カクトクしたシヨクミンチのとみがシホンシユギをゆたかなものにしたんだらう。サクシユがあるようなケイザイタイセイは(そのタイセイをシジするひとは) 「アイ」があるといわない。

なぜシヨクミンチでサクシユしなければならなかったか。ひとつはロウドウケイザイのヘンカだとおもう。つまりコヨウされるひとの「アイ」、わかりやすくいうと、ジカンをコヨウシヤにあずけ、かわりにかねをうけとるといふ「アイ」を「かね」にかえるロウドウがタスウをしめるようになり、また、そのキギヨウタイは、ほかのキョウソウアイテときそうようになつていたのだらう(コジンケイエイのシヨクもあつただらうが、すくなくなつていったのではないか)。そうすると、われさきにとほかのチホウでサンシユツされるケンエキをカクトクするようになるだらう。イッポウ、コジンシヨウ(ジエイギョウシヤ)は「アイ」をたもてていたとおもえる。ロウドウシヤをコヨウするキギヨウタイのシヨウユウシヤはあつめた「アイ」でゆたかなセイカツをおくつたかもしれないが(ただし、かねは

でていった)、ヒコヨウシヤは「かね」をうけとるかわりに「アイ」がすくなくなる。つまりあれるのである。ダイタイ、キギヨウのシヨウシヤよりヒコヨウシヤのホウがおおいから、かずのモンダイでシヤカイはあれていく。キョウカイもちからをうしなっていたとき。

ニジュツセイキにはミンシユシユギをとるくにおおかつたからそれはセイジにハンエイされる。だから、センソウがおきたのだろう。ハンセイとして、「アイ」はあれるテイドに「かね」にかえないようにとか、いくらシヤカイがあれてもセンソウをしないようにとか あれたシヤカイをなだめるしくみをつくるようにとかが いえるとおもう。

### ニジュウシチ 『む』ヒヤクヨンジュウゴ

ちよつとまえまではからになったのみものビンをみせにもって行って、ヘンキン(ビンダイ)をうけとったものだ。しかし、サイキンは(ケースでかう)ビールビンなどはまだそれをやっているかもしれないが)カンだとか、ペットボトルにのみものをつめてうっている。たしかにそれならユソウチュウにわれたりもしないし、かるいのだろう。それらはごみ

としてリサイクルコウジヨウにおくられるらしい。だが、そうしてしまうと、ごみがふえる。またモンダイなのが、ジュウタクなどもイツカイばらしてあたらしいのをつくらうとなる。それはカンやペットボトルでそうしているのだからすんなりうけいられるのであろう。むしろ、それしかかんがえつかないかもしれない。

しかし、ヨーロッパのいしづくりのたてもなどはジュウミンとカグをいれかえればほぼいつまでもつかえるだろうし、モクゾウのジュウタクもながくつかうらしい。そうたびたびばらしてあたらしくするんじやヒヨウもかかるからおかねもたまらない。そういうすてあたらしくかうというにはきをつけよう。コーヒーやシャンプーなどはつめかえシキのものがあるからそうしている。ペットボトルがうれば、ドケンやがもうかるではしようがなさそうなのである。

## ニジュウハチ 『む』ヒヤクロクジュウイチ

しごとをする。おかねをかせぐ。ここまではいい。フツウのロウドウシヤのすがたである。そのおかねをチヨキンにまわすとどうなるか。むかしはともかく、いまはテイキンリなの

で、イッパースェントもリシがつかない。トウシにまわすとどうなるか。ゴパースェントでまわしたジユツパースェントでまわしただと、ジユウネンでガンキンがニバイになる。なんのことはない、そういうことなのだ。

ジブンのしごとをこなして、キュウリヨウをもらうだけではイチバイのしごとである。しかし、おかねにもかせいでもらえば、もっとセイカツがゆたかになる。だから、いまのジダイはチヨキンではだめなのだろう。そのおかねのウンヨウのしかたで、セイカツにさがでるのだ。

ニジユウキュウ 『よろこぶゲンシジン（イカ、『よ』『ヨ』）』

いつからだか、「スパゲッテイ」や「ピザ」がはやりだしたような気がする。また「ラーメン」とか「パン」もなにかとうれているような気がする。しかし、ひるごはんに、スパゲッテイをたべたロウドウシヤがテツコツをもちあげられるきがしないし、ひるめしにラーメンをたべたカイシヤインがモクザイをタクサンはこべるとはおもえない。

ジツはそうやって、ニホンケイザイは、ちからしごとがゲンシヨウして、デスクワークの



わりあいがふえたのかもしれない。「シヨク」のヘンカがさきか、「シヨクギヨウ」のヘンカがさきかはわからないが、すくなくともタイリヨクをつかわないしごとがふえているんだらう。このケイコウはバブルのあたりから（パンとラーメンはまえからよくあった。）つよくなり、いまもつづいていようだ。きつくいえば、ニホンジンのヒンジャクカがすすんでいると。

そのころから（ケイザイの）テイセイチヨウがはじまった。そういうシヨクリヨウをこのみつづけるとしたら、（ケイザイ）セイチヨウはむずかしいとおもう（やはりタイリヨクシヨウブであろう）。むかしのセンソウは「シヨク」にこまったらしいが、そのケツカだろう、たかいつづけられなかった。いまはたべるものがあるとはいえ、エイヨウカのひくいものは、たかいつづけるのはむずかしいであろう。

## サンジュウ 『よ』ハチ

ニホンジンにとって、このふゆはさむいものになりそうである。それはあぶらのねだんがあがるだろうからである。そうするとデンキリヨウキンもあがる。くにのタンイでみれば、

ユニューウガクがふえて、ボウエキあかじがでかねない。それはつまりおおきくみたコジンのカテイがあかじになるということである。これはヘイキンテキないかたなので、そんなにくらしむきがかわらないカテイもあるだろうが、あまりおかねをもっていないカテイにとつてはシカツモンダイとなる。ヘンサチでいうとゴジュウイカのカテイがあかじになるということだ。つまり、ニホンのゼンカテイのハンブンが「あかじ」になるわけだ。だからネンリョウをダイジにつかわなければならぬ。それができなければあかじだ。

わたしはあまりさむいときは、コートをきてねることにしている。チャンチャンコならワフウだが、あまりうっているのをみかけない。これがあつたかいので、ねるときにダンボウはヒツヨウない。ニツチュウウにつかつてもよい。ダンボウダイがセツヤクできる。とはいえ、こたつをつかっている。ヘヤゼンタイをあたためるとねつがムダになる。テンジヨウまであつたかくするヒツヨウはないからだ。ブブンテキにあつたかければよい。

あとエネルギーをつかうのがフロダ。シャワーならつかつたブンだけであるが、ゆぶねをつかうとヒヤクリットルイジヨウをわかすことになる。だからわたしはキョクリヨクゆぶねにははいらない。みずあびですませるのである。

こうしたクフウで、さむいふゆをすこせばあかじはへっていく。ドリヨクすればいいので

ある。くにのボウエキがあかじということは、コクナイのいえやキギヨウのソウワがあかじということだ。なかにはくろじのいえやキギヨウもあるだろう。しかし、ゴジュツパーセントイジヨウのカテイやキギヨウがあかじだと、もはや「チュウリュウ」とはいわない。

いまのところシサンがあるだろうから、モンダイにはならないが、あかじがつづけばやがてそれもつきる。たとえばイッチョウエンのボウエキあかじとしたら、ダイタイひとりあたりイチマンエンのあかじだということになる。キュウリュウがサンジュウマンエンあれば、たいしたガクでないようだが、まみずのイチマンエンなので（ボウエキはコクサイトリヒキだからシンヨウのあるツウカでおこなわれる。キュウリュウはかならずしもそうではない。）おおきいとおもう。キュウリュウをはらつてくれるだれかもイチマンエンのあかじだから、さきざきキュウリュウはへるだろう。

もしそれでも「チュウリュウ」なんてことばをつかうとしたらそれは「ビンボウ」のことだ。ネンリュウのセツヤクもそうだが、ほかのムダもはぶいていかなければならない。わたしはみずのセツヤクもしているが（●『む』ヒャクニジュウロク）、もつとムダをはぶいていかなければならないとおもう。いまは「フケイキ」ではなくて「ビンボウ」なのだ。ニンシキをあらたにしなればならない。

サンジュウイチ 『よ』ニジュウキユウ

ニジュツセイキはアメリカガツシユウコクがコウギョウセイサンのメンでつよかつたといわれる。ニジュツセイキコウハンになって、ニホンがそれにつづくようなハツテンをした。ニジュウイツセイキにはいるとチュウゴクである。ニホンでもチュウゴクセイヒンがあふれることになっている。しかし、チュウゴクのコウギョウハツテンは、これイジヨウカノウなのだろうか。わたしはむずかしいとおもう。

ニホンのジンコウはイチオクニセンマンテイドで、かりにコクミンすべてがコウギョウセイサンをしてもななジュウオクの子キユウのジンコウすべてにセイヒンをうってもひとりロクジュツコつくつてうることができぬ。しかし、チュウゴクでそれをやると、ジンコウがジュウサンオクだからゴコしかつくらなくてよい。つくりすぎてもかいてがないし、カカクもさがる。それではさすがにたべていくのにクロウするだろう。だから、チュウゴクでもサ―ビスギョウのヒリツがあがるのではないだろうか。

サンジュウニ 『よ』サンジュウ

あるときから、シジョウにチュウゴクセイヒンがまわるようになった。チュウゴクセイフが「カイホウ」ケイザイをうちだして、キュウジュウネンダイに、センシンコクのキギヨウが、チュウゴクホンドにコウジョウをつくったことによる。ジンケンヒがやすいからチュウゴクにコウジョウをつくるが、ジツサイにつくるのはニンゲンでなくキカイをいれてやっているとオヤジからきいたことがある。たしかにそれならどこでつくってもヒヨウはそうかわらないだろう。むしろチュウゴクのケイザイがうわむいたときのシジョウをキギヨウはねらっていたのだろうといまではおもう。

レイネンダイから、ニホンのシジョウにまわるチュウゴクセイヒンがふえてきた。それまでガツシユウコクセイやトウナンアジアセイだったヨウフクが、チュウゴクセイだらけになった。ジュウネンダイになると、やすくうられていゝものはみんなチュウゴクセイだといゝうニンシキができるようになった。デンキセイヒンもそうだ。ダイタイやすくうられていゝものはチュウゴクセイだ。ザツカもそう。

ニホンセイフはブツカをあげたいとおもっているようだが、やすいチュウゴクセイがはいつてきては、そうカンタンにあがるわけはない。ツウカキヨウキュウリヨウをふやせばブツカはあがるというのは、とじられたケイザイユニットのなかでというジジョウケンつきだろう。

しかし、いまはエンやすがすすんでいるから、ユニユウヒンがたかくなつたといえなくもない。だが、チュウゴクゲンとのヒカクでエンがさげなければ、やっぱりブツカはあがらないだろう。チュウゴクがケイザイハッテンして、ジンケンヒがあがつたからキギヨウはほかのくにくにコウジョウをうつしそうなものだが、やっぱりチュウゴクシジョウがねらいだったのだろう。あまりニホンシジョウでのチュウゴクセイヒンがへっていないのがゲンジョウだ。

サンジュウサン 『よ』サンジュウハチ

セカイのとみのハンブンをなんパーセント（ひとけた）のかねもちがにぎっているといわれることがある。それにタイしてけしからんということとはできるが、それだけそのかねもちがいいしごとをしたのだから、しょうがないともいえる。なにもしないでおかねをかせげるわけではないのである。そういうジョウキヨウがあるから、そういうとみをシヨミンにこぼしあたるみたいなのはなしをしたりする。でも、やっぱりゲームセンターのコインゲームのように（●ニジュウニ『む』ヒャクニジュウニ）そうカンタンにはこぼれおちるわけではない。どうすればこぼれおちるだろう。どこかにおかねをおとせば、ナンニンかがひろっておわり

である。それなら、こぜにをタクサンおとせば、ケッコウなかずのひとがひろえるかもしれない。しかし、そのばにいるひとしかひろえない。

あるキセイをカンワすれば、そのカンワされたギョウシユにひとびとがサンニユウする。それでセイコウすれば、それにカンレンするギョウシユもうるおうのである。これはあらたなかねもちのつくりかただが、そういうチャンスをあたえるのもいいかもしれない。ビョウドウにケツカをあたえようと、あまりはたらかないひとが、はばをきかせて、やるきのあるひともしやるきをなくしてしまう。かねもちのやるきをうばえば、とみはいきわたるかもしれないが、それはどうなのか。ゴルフのハンデイキャップのようなものをあたえたとしても、やっぱりまたおかねをかせいでしまうようにもおもえるのである。しかし、ゼイのルイシンカゼイとはそういうことある。

サンジユウよん 『よ』 ヨンジユウ

シャカイシユギはシツパイといたり、サイキンではきかないが、シャカイシユギはいいといたりする。だがホントウにシャカイシユギはシツパイなのだろうか。シャカイシユギ

はシホンシユギとヒカクされたりするが、コンカイは、シホンシユギはダイサンのかんがえかたとしておく。

センシンコクではイッパンテキにシジョウケイザイである。シジョウにはキホントテキにジユウにたちいれる。そしてジユウにバイバイできる。それはニンゲンがものをヒツヨウとするからそのジユウをみたすためである。ものがなかつたらニンゲンのセイカツがなりたない。シャカイシユギのばあい、ハイキユウなどがあつたりする。そうするとセイカツができるわけだ。ただハイキユウにあるイガイのものはてにはいらない。そもそもつくつていないかもしれない。ハイキユウするシユタイが、なにかをユシユツして、ハイキユウしてほしいとキボウのあつたものをユニユウできれば、ハイキユウをうけるようなやりかたでもゆたかにくらせるだろう。しかし、そういうことをつづけたタイコクは、ハイキユウセイドをやめたときく。そしてシジョウケイザイをドウニユウしたのだ。そのタイコクがシャカイシユギのキシユであつたため、そのタイコクがやめてしまうと、ほかのちいさいくにもそれにつづくだらう。そういうわけでシャカイシユギをとるくにはすくなくなつたはずだ。

そういうシジョウキョウからシャカイシユギはシツパイといえるか。そうではない。ジユウシジョウシユギはモチロンつよいが、シャカイシユギもまたつよいのである。そのシャカイ



シユギとはなにか。カイシャである。カイシャのジユウギヨウインは、しごとをしてキユウリヨウをうけとる。それはハイキユウをうけとるシヤカイシユギのセイドににている。にているというのは、ハイキユウをうけるリヨウがまちまちであるからだ。

さてそのシヤカイシユギにちかいカイシャはかわるだろうか。チンギンなどがかわった（ノウリヨクキユウ）カイシャもできたが、そうはかわっていないかもしれない。また、ヒセイキコヨウなどロウドウシヤのありかたもかわったメンもある。しかしながら、カイシャがジユウシユギにかわったというはなしはきかない。

ロウドウシヤのジユウシユギはふえたかもしれないが、ホウシユウをうけとるのにクロウするブン、シヤカイシユギをもとめるひともあろう。だからジユウシユギとシヤカイシユギはタイリツするかはともかく、まだまだジユウヨウなロンテンであろう。シホンシユギといふかシホンは、それぞれのセイサンカツドウのおおきさであろうか。

サンジユウゴ 『よ』 ヨンジユウゴ

ひとりあたりジューディーピーはトシコツカホウがたかくでる（●ジユウイチ 『ア』ニヒヤ

クサンジュウイチ」とシテキした。ジンコウがミツシユウしているし、とりひきのキヨリがみ  
じかければヒンドもあがるだろうからだ。だからフツウのくにのスウジとくらべるのはテキ  
していかないかもしれない。そこでジーデーピーをヒカクするために、ミツドわりジーデ  
ーピーをかんがえた。

これはくにのなかのヘイキンテキなひとりあたりリヨウイキ（トシでもノウチでもない）  
（ジンコウわるメンセキ）でひとりあたりどれだけセイサンされているかをしめす。いいか  
えれば、くにのひろさをイチヘイホウキロメートルとしたときに、そのひろさのなかでのひ  
とりあたりどのくらいセイサンするかのシヒョウだ。つぎのスウシキでケイサンする。

ひとりあたりジーデーピーわるジンコウミツドだ。これでトチをふくめてひとりがどの  
テイドセイサンしているかがわかる。このあたいがひくいばあいのひとつのリユウはトシカ  
がすすんでいることであろう。このあたいがたかいとヒコウリツかもしれないが、それもゆ  
たかさではある。かならずしもひとはトシにすみたいとはかぎらないのである。

サンジュウロク 『よ』ロクジュウロク

「やすい」ものはミリヨクテキである。そういうものをかえば、おなじシキンでもよりのしめる。おおきなやすうりテンにまけたから、ジエイギョウのちいさなショウテンがつぶれたともいわれる。たしかにジエイギョウのそういうみせは、おおきなみせほどやすすくない。おなじようなショウヒンをあつかっているなら、おおきなやすうりテンにいつてかおうとする。それはわかる。

しかしながら「やすい」ことはそんなにトクなのか。「やすものがいのせにうしない」ともいう。ひとつのみせでショウヒンがやすくなると、ほかのみせもやすくしようとするかもしれない。そうしないとうれなくなるからだ。そうすると、そのショウヒンジタイのねだんもやすくなる。やすうりテンがやすくしたブンのフリエキをかかえれば、それはそのみせだけのモンダイだが、ほかのみせもやすくして、そのショウヒンをうろうとすれば、メーカーからのしいれねをやすくしようとするだろう。そうするとメーカーもねびきしてフリエキをこうむることになる。それがテイドをこえると、メーカーやショウテンはあかじのブン、ジンインサクゲンしたり、ジュウギョウインのキュウリョウをさげたりすることになる。

それはショウヒンをかうホウにはカンケイないだろというかもしれないが、メーカーもショウヒンのヒンシツをさげるかもしれない。そうしないとちいかないからだ。そうすると、

やすいシヨウヒンをかおうとしていたひとも、ヒンシツがさがったとおもうだろう。この「シヨウヒン」がシヨクリヨウヒンだとしたら、やすくかおうとすると「めし」がまずくなるというケツカになる。だから、うまいめしをたべたきや、やすいものをさがさないホウがよいとなる。

サンジユウなな 『よ』 ロクジユウシチ

やすうりアツリヨクがシャカイゼンタイにかかっていると、ヒサンなジタイになる。それを「レッカシヤカイ」とよぼう。「デフレ」がとまらないとかいうが、そういうジヨウタイのことである。さきにのべたように、シヨクリヨウがそういうジヨウタイになるとヒサンだ。マイニチ「まずい」めしをたべなければならぬからだ。コウギヨウセイヒンならタシヨウヒンシツがわるくても（ジコがおこるのはロンガイだが）、それほどこまらないが、シヨクリヨウだとこたえる。そうすると、「まずい」めしはいやだからと、シヨクリヨウヒンのねだんだけはあがるかもしれない。

ことわざには「やすかるう わるかるう。」ともある。シャカイゼンタイが「レッカ」する

のでなく、「やすい」ものも「たかい」ものもかえるセンタクのジユウをのこしてほしいとおもう。あるひとは「まずい」ものばかりたべるかもしれないが、それはそれぞれのジユウだといえるようにすればとおもう。

### サンジユウハチ 『よ』ハチジユウキユウ

わたしはオンガクをつくったりする。もうガツキやサツキヨクをはじめてニジユウゴネンイジヨウになる。バンドブームにシヨクハツされてはじめた。ただそれでセイコウすることはずかしいこともわかっていた。だからほどほどにやっていたカンがある。

ただ、いいキヨクをつくればうれるのだろうかとおもっていた。だからプロのシイデイのハンブンのねだんで、いいキヨクをテイキヨウすれば、あるテイドウれるんだらうとおもっていた。ただそれはあまいかんがえだときづいた。それはシイデイのジツセイカカク（テイカではない。）をセイサンしたからわかった。

イチニチにイツカイきくシイデイがあるとす。それはネンカンでサンビヤクログジユウゴカイきかれるセイサンになる。イツポウ、イチネンでイツカイきかれるシイデイもあるだ

ろう（ゴネンにイツカイきくようなシイデイはケイサンからはぶく）。それはネンカンでイツカイきかれる。そのイチニチイツカイきかれるシイデイをジュウマイもつていたとする。そうするとイチマイでサンビヤクロクジュウゴカイきくから、ジュウマイでサンゼンロツピヤクゴジュツカイきくことになる。イツポウイツカイきくシイデイをヒヤクヨンジュウマイもつていたら、イチかけるヒヤクヨンジュウでヒヤクヨンジュツカイきくことになる。

ここでシイデイのねだんをイチマイサンゼンエンとカテイする。イチニチにイツカイきくシイデイはネンカンサンビヤクロクジュウゴカイで、これをサンゼンエンとすると、それがジュウマイあるからサンマンエンとなる。イツポウイチネンでイツカイきくシイデイはヒヤクヨンジュウマイあつてもサンビヤクロクジュウゴカイにタツしない。それをイチマイブクケイサンするとサンビヤクロクジュウゴカイがサンゼンだから、イチマイはハツテンニイチエンになる。これがヒヤクヨンジュウマイだからセンヒヤクヨンジュウキュウエン。

これをヘイキンすると、サンマンたすセンヒヤクヨンジュウキュウわるヒヤクゴジュウでイチマイあたりニヒヤクナナテンロクロクエンとなる。つまり、シイデイのあるソウテイでのジツセイカカクはヘイキンテキなものイチマイニヒヤクジュウエンとなる。だから、プロのハンガク（センゴヒヤクエン）にカカクをセツテイすればうれるかというところというわ

けではないということがわかる。なにしろプロ（シイディをだしているのがプロばかりとして）のヘイキンテキナシイディのねだんがニヒヤクジュウエンなのだ。

だからまあまあのかんじだとニヒヤクジュウエンでうりだすのがただしだろう。そのニヒヤクジュウエンでシイディをうってリエキをだせるのが「プロ」ということになる。フツウそうはできないだろう。でもそれができないのだったら、シュミでオンガクをやるにとどめておいたホウがいい。そういうことだ。

サンジュウキュウ 『よ』ヒヤクジュウヨン

ものをもつとへやのなかにそれがたまっていく。ものをかいすぎるとうごけるハンイがせまくなる。イチジわたしはホンをためていたが、よんだものはショブンするようになった。やはりかたづかないとこまるのである。どうすればいいか。リソウテキなのは、つかうときだけホンがあることである。つかわないときはなくていい。どこかでかりられればいいが、トシヨカンにおいていないホンもある。テレビなんかもそうだ。みたいバングミだけみられればいい。テレビジュウキもいらなかももしれない。そういう「パーユーゼージ（つかうブ

ンだけ」にすれば、むだなものがふえないし、ベンリだとおもう。

よんジュウ 『よ』 ヒヤクニジュウゴ

サンジュウネンほどまえ、わたしは、はねだクウコウをリヨウしていた。いま、おもいだしてみると、ニホンはシャカイシュギだったのではないかとおもう。なぜなら、「コウキュウヒン」がああのコウコウにはなかったようなきがするからだ。サンゼンエンのコウキュウベントウもなかったし、ブランドものなにかが うられていたとも おぼえていない。そのかわりに、シヨミンのたべもの「やきそば」や ニホンジンがクフウしてちいさくなったブングなどがうられていた（あるときは、カードがたのボールペンがあった）。コクナイセンがおもとはいえ、かねもちもリヨウしそうだが、そんなかんじだったとおもう。もつとも、いまはたてものがかわってしまったが、タシヨウコウキュウヒンをあつかうようになったのだからうか。「カクサ」とかいっているからあつかうようになったのだろう。そうでなきや、まだ「シャカイシュギ」のままだ。もつとも「シャカイシュギ」のいごちのよさはあるだろう。ステーキをたべているひとのよこで、すうどんをたべなくてもよいのだ。そういうこともか



んがえるから、「コセイ（●『よ』ヒャクジュウなな）」というタンゴで「こまかすかもしれない。シホンシユギだったらそういうしかない。

よんジュウイチ 『よ』ヒャクサンジュウイチ

なにかのしくみを「かねもち」や「ビンボウニン」にあわせるとどうなるか。あるものごとのブンプはセイキブンプではかれることがある。カズをジョウゲにとったベルがたのグラフである（ヘイキンがもつともおおい）。ニホンだと、ガツコウのセイセキをそのリクツをつかつてはかる。ヘンサチというやつである。ベンキョウができるひとは、できるほどかづがすくなく、またできないホウも、できないほどかづがすくなく。ヘイキンからキヨリをはかるとヘンサチである。

それなら「かねもち」や「ビンボウニン」にセイサクをあわせると、そのギャクのひとたちからのキヨリがおおきく、またヘイキンからのキヨリもあるから、ソウタイとしては「ムダ」がおおそうである。じゃあどうすればいいかというところ、「ヘイキンテキナひと」にあわせるとムダがすくなくなる。それでいいかはともかく、それならムダはすくないのである。ニ

ホンではルイシンカゼイといって、ビンボウなひとからはすくなく、かねもちからはおおくゼイキンをとっているが、ヘイキンテキナゼイリツにすることもできるだろう。

セイヒンもヘイキンテキナねだんにすることもできる。しかし、ヒヤクエンでショウヒンをかえるみせがはやっているから、ヘイキンテキナねだんではだめなのかもしれない。セイヒンも「ヘイキンテキ」なものをイッコタイリョウにつくるよりも、「ビンボウニンむけ」と「ヘイキンテキなひとむけ」、「かねもちむけ」とつくるホウが、コウリツがよさそうだ。ベツにイチリツにするヒツヨウはない。しかし、「テイカカク」なものがうれるようなきがある。そういうのをシユクショウがたケイザイというのだろう。ジツサイのとりひきがそうであるかはともかく、だれかや、だれからのシンリには、そのコウゾウがあるのである(●『よ』イチ)。カイキュウセイにしてしまえば、みつつのセイヒンをつくれればいいが、ニホンではなかなかなじまないのだろうか。

よんジュウニ 『よ』ヒヤクヨンジュウサン

シャカイシユギシャカイをおわらせたかったら、そのシャカイシユギシャカイのひとにう

まいものをくわせればいい。そのひとがそのうまいものはなしをはじめると、そのシャカイでうわさになって、そういうものをたべたいというはなしになる。そういうものは、たかかったりするから、それをたべたひととたべていないひとのカクサができてくる。それをカイシヨウしようとして、そのシヨクリヨウをやすくしようとするかもしれないが、それはザイセイテキナフタンになる。それがつづくと、セイフフサイがふくらみ、やがてセイフはハタンする。そうするとモンダイのたべものをヨウゴするひとと、シジしないひとにわかれて、シャカイシユギシャカイはホウカイする。

キョウソウをドウニユウしようとか、しないでよいといいはじめる。ニホンのシャカイもハチジュウネンダイおわりの「ギユウニク」で、シャカイシユギがおわたのだろう。だから、ジシヨウシャカイシユギシャがシンヨウできるかをみやぶるには、どんなものをたべているかをきくといひ。タブンなまぐさじゃつとまらないはずだ。

よんジュウサン 『よ』ヒヤクゴジュウロク

コウカンをフクザツにしていくとムダがしようじる。しかし、そのムダがベツのしごとを

うむ。わかりやすくいえば、しごとのあいだ、こどもをあずかつてほしいとか、すぐにたべられるシヨクドウがほしいとかである。シヨウニンはコウカンのサイのムダでたべるためのおかねをかせぐ。そうこうしていると、じゃあ、こどもをあずかるとか、いそいでごはんをつくりますというひとがでてくる。それをムダといつて、おこるようなひとはあまりいない。そういうムダでたべるひともいるのである。そういうムダのおおいチイキをトシとよんだりする。そこにはそういうムダがあるからしごとがある。だからひとがあつまる。ニホンだったらトウキョウがサイたるものだ。とにかくひとがあつまっている。ムダはムダだが、それはひとをたすけるから、いいムダだとゲンダイジンはいうのではないか。

ベツのムダもある。「ゼイキン」というやつである。これは、くにやカクジタイにあつめられ、そのジュウミンのためにつかわれる。でも、ダイジなのは、さきのシジョウにおけるムダとドウヨウに、ひとにしごとをあたえることではないかとおもう。つまり、チヨクセツのコウムインではなくても、しごとがえられ、たべられるようなひとをふやすというコウカがある。ふるくからはオウがそうやってコヨウをイジして、おさめるくにをヘイワにしたのだから。センソウをしているオウのはなしばかりをきいていると、なにをしてもいいひとみたいにおもつてしまうが、ジツサイはそういうやくめをしているのだから。

しかし、ムダをはぶいてしまえというひともある。とりひきのチュウカンにはいつていただれかをはぶいてしまつて、よりリエキをえたり、シヨウヒンをやすくしたりというやりかたである。それだとムダははぶかれて、トクテイのひとはリエキ、シュウエキやねだんのやすさをえられるが、あいだにはいつていたひとは、しごとがへるかうしなつてしまう。それでいいのかというモンダイがある。

シヤカイのアンテイをまもうとしたら、ほどほどにしたホウがいいかもしれない。かねをふやすことをモクヒヨウにしているひとがいるから、そういうムダをはぶいたりすること  
がシヨウレイされたりもする。ニホンでは「はげたか」とよばれ、あまりヒヨウバンはよく  
なかつたが、そういうひともある。なにはともあれ、そういうムダもやくにたっているわけ  
だ。

よんジュウよん 『よ』ヒヤクゴジユウなな

イツカゲツのシヨクヒがジュウマンエンのひとと、イチマンエンのひとがいるとする。いまのニホンではジュウマンエンだせば、ケツコウいいシヨクジができるだろう。しかしイチ

マンエンではジュウブンなエイヨウはとりづらい。ひとは、そのひとを「ビンボウ」とよぶかもしれない。そういう「カクサ」がたまにモンダイになる。カクサがあってもいいというひともいるし、へらしたホウがいいというひともいる。へらすしたら、どうすればへるか。

シヨクヒがつきにイチマンエンのひとが、ジュウマンエンのひとのシヨクジをつくれればいいだろう。シヨクヒがつきにジュウマンエンのひとなら、シヨクヒにジュウマンエンかけられるわけだから、イチマンエンのひとはジュウマンエンうけとって、ゴマンエンブンなり、ハチマンエンブンなりザイリヨウをかい、シヨクヒがジュウマンエンのひとにシヨクジをだせばいい。うまくいけば、シヨクヒがジュウマンエンのひとはマンゾクだし、もともとシヨクヒがイチマンエンのひとは、ゴマンエンなり、ニマンエンなりをかせげる。すると、もとはイチマンエンのシヨクヒのひとはロクマンエンなりサンマンエンなりをシヨクヒにかけられることになる。そうするとカクサもへるし、シヤカイもゆたかになるのではないか。

それをジッセンしていたりするのが、イミンなどのリヨウリやである。チュウカリヨウリはニンキがあるらしい。そういうチュウゴクジンのチエはただしいとおもう。「チュウゴクジンのチエ」としたが、かならずしもチュウゴクジンだけのものではないとおもう。タンジュンにいえばそのくのにシヨクタクをみれば、そのくのにケイザリヨクがわかるのである。ニ

ホンはななジュウニネンまえのハイセンから「フツコウ」したというが、ホントウにシヨクタクがフツコウしているかといえばうたがわしい。オウベイフウのシヨクリヨウなどで、あなうめされているようなきがするからだ（それはかならずしもわるいことではないが）。デントウテキナニホンシヨクがあまりみられないきがする。それもセンギョウシユフがカツヤクしていたジダイには（ダンカイのセダイくらいまでだろうか）、デントウテキナシヨクがまもられていただろうが（それもさきのかんがえかたとおなじである）、そのあとのセダイのともばたらき力によって、シヨクブンカがヘンヨウしているとおもわれる。フツコウは、ダンカイのセダイくらいまではセイコウしていたが、いまはザセツしているようなきがする。いいものを取り入れたといえばきこえはいいが、ほんもののニホンシヨクがみられなくなるのはちよつとかなしい。

よんジュウゴ 『よ』ヒヤクロクジュウなな

「コスト」をへらす。というコウテイテキにとらえるひとがおおいのではないか。たとえば、ネンピのよいくるまをかって、ガソリンイチリッターあたりジュツキロはしるところ

を、ニジュツキロはしるようになり、ネンリョウコストをニブンのイチ、ジュツキロあたりヒヤクニジュウエンへらしましたと。カイシャでもコテイヒをへらして、ネンカンナンゼンマンエンヒョウをへらしたとかいう。でも、それにイをとなえるひとはあまりいない。タイテイ、それをきいたひとはよかったですねとか、うちもみならわなきやだろう。

しかし、そのコストは、ホントウにへるものなのか。さきのくるまでいうと、サクゲンされたイチリッターあたりヒヤクニジュウエンのもと「コスト」はどこへいくのか。それはくるまホンタイのねだんにいくというのがひとつのこたえだろう。つまり、ショウエネブヒンをつかっているために、まえにのっていたくるまよりハチジュウマンエンたかいとか。カッターメンがテイカニヒヤクエンのところ、ヒヤクエンでうっていたら、かうほうのコストはヒヤクエンへるがそのもとコストはどこへいくのか。メーカーがフタンしているかもしれないし、こうりテンがフタンしているかもしれない。

つまり、ひとつのカンテンからは「コスト」はへらせるのだが、そのもと「コスト」ジタイはなくなるものではないということだ。だから、だれかがコストカットしたというときは、ほかのだれかにコストがイテンしたということだ。キュウジウネンダイのギンコウのフリオウサイケンモンダイでいえば、ギンコウの「あかじ」というコストは、イチジテキに



せよ、すべてゼイキンでまかなわれた。つまりコストがノウゼイシャのホウにイテンしたものである。あとでかえされたいが、そうやってコストをすてしまえ、コストカットしたもどコストをそとにやっつてしまえというかんがえかただと、むかしのヨーロッパのデンセンビヨウのはなしにしているだろう。トシのジュウミンはフンニヨウをジブンのへやのそとへほうりだした。みながそうするから、とうとうデンセンビヨウがハツセイしたというわけだ。だからコストのもっていきさきにはきをつけなければならぬ。

よんジュウロク 『よ』ヒヤクななジュウロク

キユウジュウネンダイに、ドヨウビをやすみにするというセイサクがおこなわれた。「セイシヨ」のキジュツにあるように、かみさまがシユウにムイカはたらいたのに、なんでニンゲンはイツカしかはたらかなくていいのかとおもう（●『よ』ヨンジユウなな）。ニホンジンは、はたらきすぎだとシテキをうけたともきいた。でも、そういいかえせなかつたのだろうか。そうすると つとめにんは、そのひとのジカンができる。そのジカンをどうすすすか。あそびにいったりすれば、かねをつかう。それを「シヨウヒ」とよぶのではないか。つまり、ニホ

ンジンにシヨウヒをしてもらうというコンタンだったかもしれない。はたらいていれば、かねをつかわないし、むしろ、キュウリヨウをもらえる。しかし、ジブンのジカンがあると、あそんだりで「シヨウヒ」したりしてしまう。

そのころから、「ジブン」さがし(●『よ』ヒヤクナナジュウヨン)などいわれはじめたかもしれない。つまり、「ジブン」のジカンがふえたからだ。どうせ「シヨウヒ」するだけかもしれない。いつてみれば、ジブンのジカンができて、「シヨウヒ」をハッケンするのだ。しかし、シヨウヒをするのが「ジブン」だとはかんがえにくい。まるでやくたたずみただからだ。だからナンコウする。「ニホンはナイジュをふやせ。」といわれていたようだから、まあ、それでナイジュはふえたのだろう。しかし、そのころをキテンに「ソウシツされたいくとし(●『よ』ヒヤクヨンジュウニ)」のようにいわれるのではないか。キンムジカンがタシヨウ「ソウシツされた」のだ。わたしはいまになって、それがわかった。

しかし、ほかのセンシンコクでは、「シヨウヒ」ばかりをしているのだろうか。そうではないとおもう。かしく「ウンヨウ」しているのではないかとおもう。シユウキュウふつかになつてから、「シサンウンヨウ」のはなしをきいた。もつとも、ニホンジンは「バブル」でこりていたかもしれないが、コンピュータのハツタツにより、ジタクでやりとりできるように

もなつてきた。そういう「あそび」のホウがいいのかもしれない。ネンキンをジブンでウンヨウするガツシユウコクのひとつは、そういうジカンをとっているのではないか。はたらきすぎると、おこられるジダイである。かしこく「あそび」たいものだ。

よんジュウシチ 『よ』ヒヤクななジュウキュウ

リエキのあるところにひとはちかよつていくだろう。シユウシヨクさきをきめるときなどそうだろう。あかじがおおいカイシヤには、うりあげのすくないカイシヤには、あまりちかよつていけないだろう。しごとをしてジブンもリエキをえられにくいからだ。それがあたりまえと「リエキ」をツイキュウする。それだけでただしいのか。

ヨーロッパのレキシをみると、ローマジダイからシユウキヨウによるシハイがつよまった。おうはシユウキヨウとむすびついていたとおもわれる。つまりおうはシンコウしてキヨウカイとつきあつていた。しかし、ジュウジグンやシユウキヨウカイカクをへて、キヨウカイのちからはよわまった。それからはヨーロッパナイのセンソウがおこるようになる。また、コクガイにシヨクミンチをもとめるうごきもカソクした。シヨクミンチは、シハイコクにとみ

をもたらすからだ。そうして「リエキ」によるシハイにイコウしていった。センソウといつても、ヘイにカネをはらつてするものだから、おうのちからはシダイによわまつていった。ニホンもシヨクミンチをもつくにとたたかつたし、シヨクミンチをもとうとした。そのたたかいのケツカ、シヨクミンチはジリツするようにもどつた。そうして、リエキによるシハイをささえたひとつのホウホウがとりづらくなつた。

しかし、おおきなたかかいのハンセイというのものもある。もつとも、カクヘイキのハイビがセンソウや「リエキ」によるシハイをおわらせたともいえる。それをつかつて、センソウやリエキのツイキュウをすると、すべてのチキュウジョウのブンメイがおわつてしまうからだ。そうしたことから、いやいやかもしれないが、コツカにおける「リエキ」のシハイはおわつた。かわりになにによつてシハイされているのか。「リヨウシン」によつてシハイされつつあるようにもおもう。だから、キギョウが「リエキ」だけでうごくとしたら、ふるいレジームでケイエイしているということだ。「リエキ」がでるといふことは、どこかに「フリエキ」がでるといふことだ。トクにシヨウケンそうばなどはそうだろう。そういうキジユンでやつていれば、かちまげができるから、トクベツいいとはいえなそうなのである。

よんジュウハチ 『よ』 ヒヤクキユウジュウ

わたしはステーキがすきだが、なかなかのねだんがするところが、たべるハンダンをヨウイにさせないテンである。やすくても（セットで）センエンくらいだが、ゴヒヤクエンというところがあった。このジョウホウがしれわたると、そこにキヤクがサットウするというシンパイがあるが、ジツはカイガイなのでタブンモンダイはない。それもセットである。ニホンはブツカがさがっているから、むしろブツカをあげようというが、それはこのようなゲキやすステーキをタツセイしてからにしてみたい。

ニホンはブツカがたかいですよとサイキンきかなくなった。かわりに「ブツカ」をあげるである。たしかにブツカをあげると、ロウドウシヤはうるおうが、しごとでつくったシヨウヒンがうれなくなったらそうとはかぎらない。サンビヤクゴジュウミリリットルのジュースにしたって、ニホンではヒヤクサンジュウエンするところをカイガイではハチジュウエンでうっていたりする。だからまだまだなのだ。それでタンジュンにリエキをだそうとかんがえれば、ユニユウするわけだ。ブツカをあげれば、とみがカイガイにでていくのではないか。

よんジュウキュウ 『よ』 ヒャクキュウジュウイチ

ジブンのみちをいくことはむずかしい。わたしがわかいたときは、そんなことはかんがえなかった。そんなことないだろう。カンタンだ。というひともあるかもしれない。すきなようにうごけばよいと。そんなことをいうひとは、なやみもビョウキもシツギヨウもないのだろう。「なやみ」のないように、「ビョウキ」のないように、「シツギヨウ」のないように、うごけばいいのだからと。しかし、よのなかの「なやみ」がなくなつたとはきかないし、「ビョウキ」や「シツギヨウ」もなくなつたとはきかない。そんなにニンゲンやシャカイはカンタンではないのだ。

きまつたジカンにイツセイにツウキンしていれば、「おなじような」ひとにであう。なにかあつたら、「おなじような」ひと、ドウシにソウダンもできるだろう。そういうチョウシで、「みんな」のやつてゐることをすれば、そのコストはやすくなる。モンダイのカイケツにかかるコストが、「よくある」ゆえにひくくなる。それなら、みんなカイシャインをやればいだろうとなるが、そうもいかないのだろう。でも、「カクゴ」がないのだったら、「ジブン」のみちをあるくことは、やめたホウがいいかもしれない。たかくつくからだ。

わたしは、(キギヨウがハツコウする) かぶにエンがないが、それをとりひきすることをソウゾウしてみた。マイニチゴパーセントずつふやしていけば(そういうメイガラはすくないだろうが)、ジュウゴニチでシキンがニバイになる。イチマンエンからはじめたら、ニマンエンになる。そのヨウリヨウでつづくと、ヒヤクヨンジュウサンニチメには、イツセンマンエンをこえる。そうやってかせぐひともあるのかとナツトクである。それをジミチにやっていけば、もとでがなくてもかねもちになれるわけだ。

たしかに、イチニチでえられるバイリツは、ケイバやパチンコよりもすくない。よくてジュパーセントだからだ。しかし、それをまめにやっていけば、かねをかせげるのである(やったことがないのでわからない)。ただイチニチじゅう(たかがゴジカンだが)、ガメンにむきあっているのはつらいかもしれない。しかし、そうやってまめにやったひとが、「トウシでかせげる」などとホンをだすのである。よんだホウは、それだけこまめにできるかはわからない。わたしもそういうこまかいサギヨウはすきだが、いまのところそれをやろうとはおもわない。ほかのことをしたいとおもっている。





ものみダイからのケイザイガク シドクバン  
エイゾウ

ニセンジュウキュウネンクガツサンジュウニチ  
iii toga b008-s



エイチテイテイピーコロンスラツシユスラツシユアイアイアイテイオージーエーピリオドシ  
ーオーエム  
テイエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイテイオージーエーピリオドシ  
オーエム

エイゾウのホン

『アルクカラ カンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガクイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

『スーペリアーをみつけた。』ニセンジュウキュウネン

『ウンドウはすべてエレクトリック。』ニセンジュウキュウネン

『エルガク ひとりブツリガクのチョウセン』ニセンジュウキュウネン

エイゾウのデンシサイトからコウニユウできます。